

保育に困った時の

保育者向け

サポートブック

保育のヒントを見つけよう！



## 🌸 \* 🌻 はじめに 🌻 \* 🌸

本サポートブックは、日々子どもたちと真摯に向き合っておられる保育者の皆様が、日々の保育の中で役立てていただけるよう作成いたしました。

障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが共に育つためには、子ども自身を変えようとするのではなく、子どもに合わせた「環境」を整える視点が不可欠です。私たちが感じる「困った行動」の多くは、実は子どもと環境（声かけ、設備、日課など）とのミスマッチから生じています。

そのため本書では、診断名にとらわれることなく、子どもの「困り感」に焦点を当てた具体的な環境構成の工夫を提案しています。また、保育は一人で担うものではありません。園全体で組織的な支援が必要となるため、日々の試行錯誤や関わり方の記録を共有し、チームで考えることも重要です。

沖縄のすべての子どもが、自分らしく園生活を楽しめる保育環境を、皆様と共に築いていくための「手がかり」として、本書をご活用いただければ幸いです。

沖縄県生活福祉部 障害福祉課







# こどもの発達・発育の目安 ×気づきの目安表(0~6歳)

## 0~1歳ごろ

### 一般的な発達の目安

- ・あやすと笑う・声を出す
- ・抱っこで安心する
- ・喃語(あー・うー)を出す
- ・人の声や音に反応する
- ・見つめ合いが増える

### 気づきの目安

- ・あやしても視線が合いにくい
- ・抱っこを極端に嫌がる／反る
- ・喃語がほとんど出ない
- ・大きな音にも反応が弱い／逆に過敏
- ・表情の変化が少ない

### 保育者の関わり

- ・「反応が薄い」「感覚が極端」など「量の違い」に注目
- ・心地よい抱き方を探す
- ・ゆっくり穏やかに声をかける
- ・一对一の関わりを大切にする
- ・気づいた様子を記録・共有する



## 1~2歳ごろ

### 一般的な発達の目安

- ・指差しで要求を伝える
- ・意味のある単語が出始める
- ・大人の動作を真似する
- ・名前を呼ぶと振り向く
- ・好きな人に近づく

### 気づきの目安

- ・指差しがほとんど見られない
- ・単語が出ない／増えない
- ・模倣が少ない
- ・名前を呼んでも反応が弱い
- ・人への関心が薄い

### 保育者の関わり

- ・見本を多く見せる
- ・言葉+身ぶりで伝える
- ・応答的に関わる
- ・気持ちを代弁する
- ・成功体験を増やす



## 2~3歳ごろ

### 一般的な発達の目安

- ・二語文(ママきた 等)が出る
- ・人見知りが始まる
- ・ごっこ遊びを楽しむ
- ・イヤイヤ期が始まる
- ・自分でやりたがる

### 気づきの目安

- ・単語のみのやりとりが多い
- ・オウム返しが目立つ
- ・対人遊びが少ない
- ・癇癪が強く切り替えが難しい
- ・同じ遊びをくり返す

### 保育者の関わり

- ・短く具体的に声かけ
- ・遊びを広げるきっかけを作る
- ・落ち着ける環境を整える
- ・気持ちを言葉にする
- ・無理に変えようとするしない



※ 発達には個人差があり、この表は診断を行うものではありません。気になる様子が複数・継続して見られる場合は、一人で抱え込まず、

この表は、診断を目的としたものではありません。日々の保育の中で感じる小さな違和感に早く気づき、その子に合った関わりや支援へつなげていくことを目的としています。こどもの成長には個人差があり、「できる・できない」で見るとはならず、感じた違和感を共有し、適切な関わりにつなげるための**目安**として活用してください。



## 3～4歳ごろ

### 一般的な発達の目安

- ・友だちに興味を示す
- ・会話のやりとりが増える
- ・簡単なルールを守る
- ・集団遊びに参加する
- ・自分の気持ちを言葉で伝える

### 気づきの目安

- ・一人遊びが極端に多い
- ・会話が一方向的になりやすい
- ・ルール理解が難しい
- ・集団参加を嫌がる
- ・感情が高ぶりやすい

### 保育者の関わり

- ・少人数から関わる
- ・役割を明確にする
- ・見通しを持たせる
- ・できたことを具体的に認める
- ・安心できる居場所を作る



## 4～5歳ごろ

### 一般的な発達の目安

- ・感情を言葉で表す
- ・役割遊びを楽しむ
- ・友だちとの関係が深まる
- ・予定変更に対し対応できる
- ・ルールを意識する

### 気づきの目安

- ・変更に強く混乱する
- ・感情の切り替えが難しい
- ・こだわりが強く変更不可
- ・失敗で大きく崩れる
- ・対人トラブルが多い

### 保育者の関わり

- ・事前に予定を伝える
- ・視覚的な手がかりを使う
- ・落ち着く方法を一緒に探す
- ・成功までの過程を認める
- ・職員間で対応を統一する



## 5～6歳ごろ(就学前)

### 一般的な発達の目安

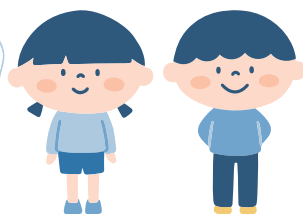
- ・ルールを守って行動する
- ・集団での役割を理解する
- ・順番や時間を意識する
- ・気持ちを整理して伝える
- ・就学への期待をもつ

### 気づきの目安

- ・待つことが苦手
- ・不安が強く表れやすい
- ・指示理解に時間がかかる
- ・集団行動で疲れやすい
- ・失敗への恐れが強い

### 保育者の関わり

- ・指示は一つずつ伝える
- ・見通しを持たせる
- ・できている点を言葉にする
- ・安心できる関係を築く
- ・就学先と情報共有を行う



職員間で共有しながら、その子に合った関わりを考えていきましょう。

# 支援の考え方

## 3つのポイント

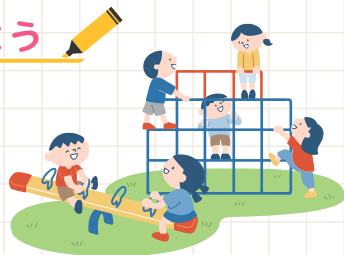


特性を持つ子どもとの関わりは特別な事ではありません。毎日のあいさつ、あそび、せいかつ習慣を整えること、友だちとの関わりを丁寧に見守る事。こうした日々の保育の中で、一人ひとりを理解し、安心できる環境を整えることが、すべての子どもの力を伸ばす土台になります。

# 1

### 観察 子どもの行動を見てみよう

子どもの行動や反応をていねいに観察することが、支援の第一歩です。どの場面で気になる行動がみられたのか、毎回なのか、観察によって、子どもの特性やニーズを理解する基盤を築きます。



# 2

### 理解 行動の背景を基に「困っている理由」を考えてみよう

観察の結果をもとに、子どもの行動を深く理解することが重要です。感覚やとらえかたの特性を踏まえ「なぜそのような行動をするのか」「どのような場面で、その行動があったのか」「前後になにかあったのか」など考えてみましょう。

一人で支援策を考えるのではなく、様々な視点からアイデアを出し合ってみましょう。保護者からも対応を聞いてみるのもよいかもしれません。



# 3

### 実践 考えた背景を基に必要と思われる関わり方をチームで実践

- 保育者の声掛けのタイミングや保育環境の見直しなどを実践してみましょう。
- 支援は「正解」を見つけることではなく、チームで「試行錯誤(PDCA)」を繰り返すことです。
- チームで共通理解をもって、実践することが大切です。



# 保護者とのかかわり方

子どもにとって、よりよいサポートをするには保護者と力を合わせて進める必要があります。保護者と一緒に考えていくためには、まず**信頼関係**を築きましょう。そのためには日頃の**雑談**も必要です。保護者の置かれている状況や背景に寄りそいながら、元気になってもらえるようなポジティブな表現、言葉づかいを心がけましょう。

## 保護者さんもいろんなタイプの方がいます！



### ① こどもの成長に関心がうすい保護者

- 保育者の心のつぶやき：「まずは、こどもの『ファン』になってもらおう！」
- 関わり方のヒント：言葉だけで伝えず、「現物（作品や写真）」をセットで出します。「〇〇ちゃん、これを作っている時、目がキラキラしてたんですよ！」と、**先生自身の感動**を伝えて、親の心を動かします。

### ② いつも忙しそうなお保護者

- 保育者の心のつぶやき：「最短・最速で、安心だけを持ち帰ってもらおう！」
- 関わり方のヒント：「おたよりちょう」の活用や、今日一番のナイスプレーをみじかく伝えましょう。「お疲れ様です」の一言が、何よりのサポートになります。

### ③ 過度に心配する保護者

- 保育者の心のつぶやき：「不安を、小さな『安心』で埋めてあげよう！」
- 関わり方のヒント：保護者の不安を否定せず、「そうですね、気になりますよね」と一度**丸ごと受け止めて**一緒に考えていきましょう。「給食を一口食べられた」「靴を自分で履こうとした」など、**小さな「できた」**をたくさん届けます。

### ④ 厳しい保護者

- 保育者の心のつぶやき：「『厳しさ』よりも『伝わる方法』を一緒に探そう！」
- 関わり方のヒント：保護者の厳しさは「将来への不安」の裏返し。「事前に一日の流れを説明する事でスムーズに動けました」と保育者で実践してうまく行った内容を提案してみましょう。

### ⑤ 「家族もそうだった」と楽観的な保護者

- 保育者の心のつぶやき：「今の姿に目を向けてもらおう！」
- 関わり方のヒント：気づきを急がず、共に歩む姿勢を大切にしましょう。保護者の受け止め方に寄りそいながら、丁寧に対話を重ね、「選ぶものを少なくするとスムーズに選べましたので、家庭でも是非！」と日々の関わり方を伝えてみます。

# 1

## 集団行動がうまくできない

**A** もしかしたら・・・ 

CHECK!

もとめられている内容が  
理解できていないかも!?

みんな  
集合だよー!!



やってみよう!

一緒に  
確認してみようか!



**POINT!**

全体への指示が自分に向けられたものだと気づいていないことがあります。個別の対応として全体に話した後、その子のそばへ行き、目線を合わせて「今から何をやるんだっけ?」と優しく問いかけて、理解度を確認してみよう。

**B** もしかしたら・・・ 

CHECK!

お友達に  
興味が無いかも!?



やってみよう!

一緒に  
あ〜そ〜ほ!



**POINT!**

「モノ」を介したコミュニケーションを!いきなり「人」に興味を持つのはハードルが高いため、共通の「好きなモノ」をクッションにして保育者が「お友達の〇〇くんも砂場好きなんだって。見せてあげようか」と提案します。「一緒に遊ぶ」ではなく「見せる(展示する)」だけなら、ハードルが下がります。

# ～伝えてもうまくいかない～



伝え方や  
環境にミスマッチが  
あるのかもしれないな

もしかしたら…  
**CHECK!** 感覚的過敏で音、色、におい、など何か嫌な感覚があるのかも!?



やってみよう!



## POINT!

日頃からどんな場面で不快に感じているのか観察してみましょう。耳栓や場所を変えてみる等、環境調整の工夫をしてみよう。

## つら

保健師として子どもの健診にたずさわると、健診の場面ではフォロー（経過観察や支援）が必要と感じても、保育での様子を保護者に尋ねると「保育士さんからは特に何も言われてません」「おれいこうさんだと言われています」と言われることがあります。また反対に、保育士さんから「保育での様子が気になって健診受診を促したが、健診では何も言われなかったようだ」と言われることもあります。

健診という1対1の場面と、保育という集団の場面での子どものすがたが違うこともありますし、保育者さんと保健師とで着目しているポイントが違うこともありますので、お互いがどのような場面でどのような視点から子どもを観ているのを知っておくことが大切です。よりよい支援のために、気になることがあった時には地域の保健師にもお声かけください。

(20 ページ参照)

発達障害者支援センター専属講師  
保健師：岡田 真琴

# 2 場面の切り替えがうまくいかない

**A** もしかしたら・・・ 

CHECK!

好きな遊びが  
やめられないのかも!?



やってみよう!



赤色の所が  
なくなったら  
終りね



**POINT!**

大人で言えばテレビを観ていた所、突然消されるような感覚かもしれません。「終り」の予告と可視化をして、脳の切り替えモードの準備をしてみよう。

**B** もしかしたら・・・ 

CHECK!

集中しすぎて周りが  
見えていないのかも!?



やってみよう!


次の時間は  
アールだよ



**POINT!**

複数の情報を同時に処理するのが苦手で、視界がせまくなってしまっているかもしれません。聴覚がシャットアウトされていても視覚は機能している事が多く、手元に絵カードを置いたり、声とは別にトントンと軽く触れると良いかも。

# ～次の活動へなかなか進んでくれない～

**C** **もしかしたら** 

**CHECK!** 次の見通しが分からず、戸惑っているかも!?



やってみよう!



## POINT!

言葉だけでなく視覚的な一日のスケジュールを提示（いつ、何を）して、いつでも確認できるように「情報の置き場所」を作ってみよう。

視点を变えて、  
子どもの思いや  
気持ちを  
想像してみよう



## つらら

「子どもの思いや気持ちに寄りそって!」切り替えが難しい子の場合、大人の側からすると集団を動かさないといけないし、「こまったな～」と思ってしまいます。

ただ、視点を变えてその子の側から考えてみると

- ①楽しい遊びをやめられない
- ②次の活動に見通しが持たず、不安を感じていることが考えられます。

まずは次の活動に何があるか目で見えるわかるよう写真やイラストなどを使ってスケジュールなどを示すことで、楽しみながら次の活動に取り組めるよう、心がけることが必要だと思います。

遊びを始める前に終わりの合図を決めておく（例えばタイムタイマーや時計、砂時計などを活用して）また終わりの合図がある少し前に「もうすぐ終わるよ」の声かけ。その大人の声かけによって子どもたちはもう少しで終わるんだとの心の準備ができると思います。

子どもたちの「もっと遊びたかった」「次の活動何が起こるか不安だな～」の気持ちを汲んで「楽しかったんだね、もっと遊びたかったね?」や「次～するけど心配?先生も一緒だからね!」などの声かけをしてみたいかがでしょうか?

子どもの気持ちに寄りそい、思いに共感できるといいですね。

発達障害者支援センター専属講師  
保育士：池間 純子

# 3 コミュニケーションが難しい

**A** もしかしたら・・・ 

CHECK!

ルールを理解出来ていなくて、  
行動を周囲に合わせられないかも!?



やってみよう!

すべり台は  
順番に並んで  
遊ぶんだよ



**POINT!**

言葉は耳に残らない場合でも、絵や図は残りやすいです。○・×よりも並ぶ場所に、絵で伝えたり、マーク等をつけるのもよいかもしれません。

**B** もしかしたら・・・ 

CHECK!

自分の好きな事ばかり  
話して、一方通行かも!?



やってみよう!

〇〇さんのお話も  
聞いてみようね



**POINT!**

一方通行になっている場合は共有ではなく、発散になっていたり、相手の表情を読むことが苦手なのかもしれません。話しが落ちついてから「次は〇〇さんのお話も聞いてみようね」と順番を意識した声かけをしてみよう。

# ～お友達と上手にあそべない～



「コミュニケーションが難しい」と思われてしまう事も背景がわかると対応方法も変えられるね

もしかしたら・・・

CHECK!

深い探究心があって、一人遊びに没頭しているかも!



## やってみよう!

一人遊び

並行遊び

連合遊び

協同遊び

### POINT!

一人遊びは自分の存在を確立する大切なプロセスです。

大切な事は、一人遊びを充実・保障してあげ、段階を追って集団で楽しむ工夫もしてみよう。

## つらら

コミュニケーションがうまくいくには何が必要でしょうか。

話す側と聞く側の役割には暗黙の協力的なルールがあります。適切な情報量と質です。そして関係性が作られている場合やお互いの間で共有する情報が多いほど、伝える内容は正確に伝わります。一方、会話のルールがまだ身につけていない子どもたちやことばが十分育っていない子どもたちとのコミュニケーションはどうでしょうか。話す側の大人が子どもに合わせて伝える内容と伝え方を工夫する必要があります。そしてさらに大切なことは、ことば以外の情報、表情、声の大きさや柔らかさ、身振りなどです。子どもへのほめことばが鬼の形相で伝えられる場面を想定してみましょう。子どもの視点からはどのように受け止められるのでしょうか。聞き手となる大人の役割もまた子どものお手本になります。聞き手としての振る舞いについても一緒に振り返ってみませんか。

中部療育医療センター  
言語聴覚士：大城 貴子

# 4 気持ちのコントロールがうまくできない

**A** もしかしたら・・・ 

CHECK!

言葉より手が出てしまっているのかも!?



やってみよう!



**POINT!**

「貸して」「順番」等、言葉をつかう手本を示してあげよう。  
気持ちのイラストやカードを活用しても良いかも。

**B** もしかしたら・・・ 

CHECK!

自分の不快な感情が表現できていないかも



やってみよう!



**POINT!**

本人の不快な気持ちが表現できていないかもしれません。  
保育者が代弁し、気持ちを整理してあげましょう。

# ～お友達をたたく・ひどい事を言う～



自己肯定感が育つ  
ためには保護者とも  
協力しあいたいね

もしかしら...  
CHECK! 叩く・ひどい事を言う以外の  
表現方法がわからないのかも!?



やってみよう!



## POINT!

他害行為はすぐに止めよう。「悪い事、  
やってはいけない事」と簡潔に伝え、嫌  
な気持ちになった時は「保育者に声をか  
ける」等のルールを作ってみたり、気持ち  
を落ちつける場所を提供してみよう。

## こうも

幼児期は、生涯にわたる人格形成や  
情緒・社会性の基礎（心の土台）を作  
る大切な時期！この時期に感情コント  
ロールの適切な支援を受けることで、  
小学校以降の人間関係がスムーズにな  
り、自己肯定感が育ち問題行動のリス  
クが少なくなります。日々の保育の中  
で、子ども達が安心して感情を表現し  
、少しずつ自分で調整する力を身につ  
けていけるよう寄りそっていきましょ  
う。感情コントロールは一朝一夕に身  
につくものではありません。長い目  
で見守り支援していく姿勢が大切です。

子どもが感情を表現した時はその感  
情を否定せず寄りそい、気持ちが落ち  
ついたら「次はこうしてみよう」と提  
案し、上手くいったらすかさず褒めま  
しょう。居心地の良いワールダウンス  
ペースの確保など物理的な環境整備か  
ら、一日の見通しが持てる工夫、保育  
者の一貫した対応など、子どもが安心  
できる環境作りに取り組みましょ

発達障害者支援センター SV  
小児科医：小坂 真子

# 5 じっとしてられない

**A** もしかしたら・・・ 

CHECK!

好きな事を優先してしまい  
動いてしまっているかも!?

列から出たらダメだよ!!



やってみよう!



POINT!

動きたい要求を適切な行動に変えて  
いく工夫を! 動きたいエネルギー  
を止めるのではなく、動いてもいい  
役割を作ってみよう。

**B** もしかしたら・・・ 

CHECK!

環境や刺激に反応して  
しまっているかも!?




やってみよう!



POINT!

一気にたくさんの情報を処理する事が  
難しいかもしれません。刺激になりそう  
なおもちゃを布で隠したり、音の大きさ  
を小さくする等、環境調整してみよう。

# ～ 部屋から出る・集中できない～

**C** **もしかしたら**   
**CHECK!** みんなでの食事中に一人だけうろうろする



やってみよう!



## POINT!

足がぶらぶらしていると体幹が安定せず、落ちつきがなくなります。椅子の高さを調整するか、牛乳パック等で作った足置きを設置して、足の裏がピタッとつく状態にしてみよう。

環境を整え、  
短時間から始めて  
成功体験を  
積み重ねてみるとか...



## つら

じっとしていられない子どもに出会うと、私たちはつい「落ちつきがない」「集中力がなく」と捉えてしまいがちです。しかし、その行動の背景には、「体を動かすことで安心している」「活動の意味が分からず不安を感じている」「今の課題が難しすぎる」など、さまざまな理由が隠れています。行動は困らせるためのものではなく、その子からの大切なメッセージです。

まずは叱る前に、「何が起きているのだろう」と立ち止まって考えることが発達支援の第一歩です。活動を短く区切る、視覚的に見通しを示す、小さな役割を用意する、十分に体を動かせる時間を確保するなどの工夫によって、子どもは安心して参加しやすくなります。理解され受け止められているという経験の積み重ねが、やがて自分で気持ちを整える力へとつながっていくのです。

発達障害者支援センター専属講師  
保育士・幼稚園・小学校教諭：狩俣 順也

# 6 偏食がある

**A** もしかしたら・・・ 

CHECK!

においや・かたち、  
口に入れた時の感覚が苦手かも!?



やってみよう!



**POINT!**

どんな食べ物(におい・形・食感)を苦手としているかを把握し、まずは「一口サイズ」での提供から進めます。食感が苦手な場合には調理法を工夫し、切り方や固さを変えるなど、受け入れやすい「形」を園の調理担当とも連携して探ってみよう。無理強いせず「これなら食べられそう」という安心感を積み重ねてみよう。

**B** もしかしたら・・・ 

CHECK!

混ぜられているものに  
抵抗があるのかも!?




やってみよう!



**POINT!**

見慣れない形や食材が混ぜり合った見た目に不安を感じている可能性があるため、別皿に分けて、見た目を変えたりする等の工夫をしてみよう。

# ～好き嫌いが激しい～

C **もしかしたら・・・** 

**CHECK!** お友達と食べる事が  
苦手なのかも!?



やってみよう!

お家では  
どうしてるの?



## POINT!

感覚の過敏さや対人関係の苦手さから「集団での食事」にハードルがある場合には、座席を工夫し、端の席や刺激の少ない場所からスモールステップで進めてみよう。ご家族とも連携を図りながら、園でも安心して食事ができる環境を整えてみよう。

今は食べられなくても  
まずは安心して  
その場にいられる  
環境が大切だね



## つらみ

子どもにとってもご家族にとっても「食」はとても大切なことですよね。子どもが、元気よくご飯を食べる姿は、大人にとっても嬉しいことです。しかし、中には白いご飯は食べるけどお野菜は大の苦手というお子さんもいます。食べようとするのと体が拒否をすることもあります。パクパクと食べて欲しい大人の願いと子どもの気持ちはずれてしまうと楽しいはずの食事の時間がお互い苦痛な時間になってしまうかもしれません。偏食には、さまざまな要因が考えられます。本人にしかわからない苦手な匂い、色、形、見え方、味覚と様々です。その様なことを理解し、お互いが歩み寄るためには、食べる環境が大切です。「このくらいなら食べれる?」と量の調整を子どもと一緒にしてみるのも良いでしょう。また、ご家族そろって笑顔で「おいしいね。」とご飯をいただき、そんな時間も食べてみたくなる環境のひとつです。「えっ!食べたの!」と食べた姿や気持ちを認めることも大切です。また、ご家庭での食事の様子を保育園やこども園とも共有をして、無理のない食事の環境を作ることも良いかと思えます。子どもやお母さんやお父さんが一人で頑張るのではなく、ご家庭と保育園・こども園が協力してこどもの楽しい食事の時間を支えたいですね。

沖繩女子短期大学  
羽地 知香

# 保育はチーム戦!



一人で抱え込まないための「チーム支援」

保育は、一人の「個人の技」ではなく、職員全員の「チームの力」で行うものです。保育者が笑顔で保育に集中できる環境こそが、子どもたちへの最大のギフトになります。その為にはまずは保育者間の連携とコミュニケーションを!

## 1. なぜ「チーム支援」が必要なの?

- **多角的な視点**: 1人では見落としてしまう子どもの小さな変化や、保護者のSOSに気づくことができます。
- **負担の分散**: 困難なケース (対応が難しい保護者や、手のかかる活動) を共有することで、特定の保育者への負担集中を防ぎます。
- **一貫性のある対応**: 全員が同じ方針で接することで、子どもも保護者も「誰に聞いても安心」という信頼感に繋がります。

## 2. 園長先生や主任保育士、先輩保育士の役割

- **園長先生**: チームの「盾」!  
園全体の責任者であり、職員が安心して働ける環境を守る司令塔です。
- **主任保育士**: チームの「羅針盤」  
現場と経営層をつなぎ、保育の質をコントロールする調整役です。
- **先輩保育士**: チームの「伴走者」  
日々の保育を最も近くで見守り、具体的なスキルを伝承する相談相手です。

### 保育者たちへのメッセージ



- 「一人で頑張る」よりも「みんなで育てる」
- 困った時は、皆でケース会議をしましょう。
- 保育者が疲弊してしまうと、子どもたちの小さなサインに気づけなくなってしまいます。悩んだ時は、まず隣の保育士に「ちょっと聞いてください」と声をかけてみてください。その一歩が、より良い保育への大きな一歩になります。

### 3.【外部連携】園の外にも「チーム」を広げよう

～保健師・就学先とのスムーズなバトンタッチ～

保育者だけで抱え込まず、専門知識を持つ外部機関と手をつなぐことで、子どもと保護者との連携を成功させる「3つのマナー」

1. **保護者の同意を必ず得る**：外部と連絡を取る際は「より良いサポートのために、保健師さんとお話してもよろしいですか?」と必ず確認しましょう。
2. **「事実」と「客観性」を大切に**：相談する際は「困っています」だけでなく、具体的なエピソード(いつ、どこで、どんな行動があったか)園でどのような工夫をしたのかを整理して伝えます。
3. **相手の事を知ろう**：職種によって考え方は様々です。相手の事を知り、相手の立場を尊重した「お互い様」の精神で協体制を作ります。

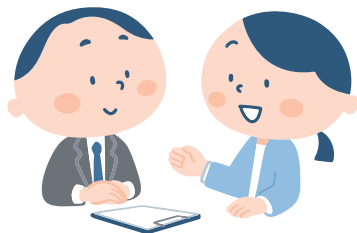
#### 保育者たちへのメッセージ

外部機関への相談は「自分たちの力不足」を認めることではありません。むしろ、「子どものために最善の選択ができるプロの判断」です。地域のネットワークを味方につけて、保育者自身の負担も軽くしていきましょう。

## 視野を広げた支援

専門機関などの専門職と連携して支援を深める

- ・市町村の相談窓口
- ・巡回相談
- ・医療機関
- ・県発達障害者支援センターなど



園だけですべての問題に対処することは難しい時もあるため、**関係機関と連携し、専門家の支援を受けることの検討もよい**でしょう。また、相談窓口や関係機関を保護者に紹介し、支援につなげるのもよいでしょう。

# 情報提供

沖縄県で保育者として働く中で、子どもの発達障害や保護者対応、自身の労働環境など、さまざまな悩みが生じることがあるかと思います。相談内容に応じて、以下の窓口を使い分けるのがスムーズです。

## ☆沖縄県保育士・保育所総合支援センター

保育全般・仕事の悩み相談窓口。保育士の方の「最も身近な相談先」です。キャリアに関する相談だけでなく、職場環境の悩みなどにも幅広く対応しています。  
内 容：就業継続の相談、職場での人間関係、労働環境改善のアドバイス  
(社労士との連携もあり)

電 話：098-857-4001 (月～金 9:00～18:00)

場 所：那覇市小禄1831-1 (沖縄産業支援センター4階 413号室)

## ☆市町村ごとの巡回相談

各自治体が独自の専門員（心理士等）による巡回相談を行っています。  
まずは園長先生を通じて自治体の保育担当課へお問い合わせください。

## ☆沖縄県発達障害者支援センター

市町村サポート事業として、認可外等の支援を行っています。

住 所：沖縄県沖縄市比屋根5-2-17 (沖縄中部療育医療センター内に併設)

電 話：098-982-2113

## ☆沖縄県障害児等療育支援事業

沖縄県障害児等療育支援事業とは、在宅の重症心身障害児(者)、知的障害児(者)、身体障害児及び発達障害児(以下「障害児等」という。)の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導等が受けられる療育機能の充実を図り、在宅の障害児等の福祉の向上を図ることを目的として、沖縄県が実施している事業です。

詳しくは、沖縄県HP

(<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/shogaifukushi/1007842/1007693.html>)



●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●●●●●



沖縄県発達障害者支援センター  
がじゅま〜る

<https://www.okinawa-gajyumaru.jp/>



発達障害ナビポータル

国が提供する発達障害に特化したポータルサイト

<https://hattatsu.go.jp/>



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所



発達障害教育推進センター

<https://cpedd.nise.go.jp/>



周りの子と、自分の子を比べてしまって、不安になることはありませんか？  
子どもにはそれぞれの育ち方があります。のびのびトイロは、「個性に合わせた  
多様な子育て」を応援するアプリです。



のびのび トイロ 子どもの色を、  
活かす子育て

<https://toiroapp.com/>



保育者が日々感じる「この関わり方なら落ち着く」「この提示方法なら伝わる」という気づきは、障害の有無を超えた質の高い保育そのものです。特性に応じた支援を園で実施し、その経過を記録に残すことは、専門機関や学先へスムーズにバトンを渡すための重要な準備となります。本サポートブックが保育実践をする上で一つの参考になっていただけたら幸いです。私たちは、診断の有無に関わらず、保育者の「気づき」から始まる切れ目のない支援体制を応援しています。

記録



理解



実践



沖縄県発達障害者支援センター がじゅま〜る

製作協力：市町村発達障害者支援体制サポート専属講師

作成：2026年3月